

第1回歯科保健推進会議・庁内歯科保健連絡会議 意見反映シート

*第1回歯科保健推進会議の御意見 ・庁内歯科保健連絡会議の意見		◎行動目標/市民の取組 ◆取組方針/市の取組	
意見の内容		対応P	取組への反映点
共通	*取組の順序を整理してはどうか。		<p>◎市民の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフケア ・食習慣や生活習慣 ・口腔機能 ・意識や理解 ・定期健診（口腔ケア） <p>◆市の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ歯科医、定期健診 ・予防指導、意識啓発 ・体制づくり ・周知、イベント
全てのライフステージ	<p>*1人当たり歯科診療費の推移について、診療費が上がるとむし歯が多いと捉えられやすい。具体的な補足をお願いしたい。</p> <p>・医療費については、額だけでなく、レセプトの件数のほうが実態が分かりやすい。</p> <p>・「妊娠期」は「青年期・壮年期」に含まれる方がいいのではないか。</p> <p>*全てのライフステージの取組のところに「お口の中を清潔に保ちましょう」と掲げ、ライフステージごとに入れ歯を毎日洗うことや、デンタルフロスや歯間ブラシを使うことをいってはどうか。</p> <p>・市民の取組に「フッ化物を利用します」とある。市の取組にもフッ化物に関することがあってはどうか。</p> <p>*妊婦の歯科健診受診率が低い。</p> <p>*障がい福祉施設に歯科衛生士や歯科医師が、健診や訪問に来てくれる機会があるといい。</p> <p>*障がいのある方にも、健診や口腔衛生管理の機会を増やしていただくよう検討して欲しい。</p> <p>・障がいのある人、介護が必要な人を「配慮が必要な人」としてはどうか。</p> <p>・多職種連携という言葉をいってはどうか。</p> <p>・歯科健診だけでなく、口腔ケアを追加してはどうか。</p> <p>*災害への備えが計画書に記載されたことは非常にいいことだと思う。備えが重要である。</p> <p>*3歳児のむし歯の指標だけでなく、5歳・17歳の指標も入れてはどうか。</p> <p>*小学校低学年では乳歯のむし歯を何本も持っている子もいる。</p> <p>*離乳食の時期が大事ではないか。よく噛める子どもとよく噛めない子どもがいる。歯が生える前の離乳食の時から段階を踏んでいくと、健康な歯、よく噛める子どもに繋がるので、強化して欲しい。</p> <p>・「年齢に応じた」「成長や発達に応じた」といった言葉が入ると、歯が生え始める前、離乳食の時期も含め全体に取り組むイメージになるのではないか。</p> <p>*仕上げみがきの実施率が低い。保護者へ意識づける方法はないか。</p> <p>・乳幼児歯科健診だけでなく、乳児期からの働きかけを考え「乳幼児健診」ではどうか。</p> <p>*乳幼児期、学童期・思春期では、保護者に歯や口腔の健康に興味を持ってもらうことが大切。</p> <p>*家庭で保護者が子どものことをしっかりケアしていけば、子ども達の指標も良くなるのではないか。※学童期・思春期も同様</p>	<p>89P</p> <p>74歳以下と75歳以上に分けて医療費のグラフを掲載。さらにレセプト合計件数を追加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人当たりの歯科医療費は、後期高齢者のほうが高くなっています。 ・74歳以下は、コロナ禍以降受診控えや受診が継続していないことが考えられます。一方、75歳以上では、コロナ禍前より件数が増えており、義歯の調整や継続的な治療の必要性があることが伺えます。 <p>健康増進計画との整合を図ること、また、ライフコースアプローチの観点から、全てのライフコースに含めることとする。</p> <p>93P</p> <p>◎口の中を清潔に保ちます。⇒ライフステージごとに反映</p> <ul style="list-style-type: none"> 【乳】保護者が仕上げみがきをします。 【学】小学校中学年までは保護者が仕上げみがきをします。 【青】自分にあった歯間部清掃用具（歯間ブラシ・デンタルフロス）を使用し、口腔ケアを行います。 【高】入れ歯は毎日洗います。 <p>適切な口腔ケアを受け、口腔内を清潔に保ちます。</p> <p>94P</p> <p>◆年代に応じた適切な口腔ケアを指導します。⇒ライフステージごとに反映</p> <ul style="list-style-type: none"> 【乳】乳幼児健診において、仕上げみがきの重要性と実践方法を周知します。 【学】小学校中学年までの仕上げみがき継続を周知し、啓発します。 【青】健診等の場で、適切な口腔ケアの方法を指導します。 【高】家族や介護者・支援者に対し、口腔ケアの重要性や実践方法に関する情報提供を行います。 <p>介護サービスや歯科医療との連携を推進し、要介護高齢者が適切な口腔ケアを受けられる体制づくりを行います。</p> <p>94P</p> <p>◆フッ化物の効果について啓発し、利用を勧めます。</p> <p>93P</p> <p>◎妊娠中の適切な時期に歯科健診や歯科治療を受けます。</p> <p>94P</p> <p>◆妊婦歯科健診の受診の必要性を周知し、受診を勧めます。</p> <p>93P</p> <p>(2) 評価指標・目標 歯科健診・歯みがき指導等、歯科保健に関する事業を行っている障害福祉サービス事業所（通所）の割合 現状値：43.8% 中間目標：45.0% 最終目標：50.0%</p> <p>94P</p> <p>◆歯科医師会や地域・関係機関の協力を得て、配慮が必要な方を含め、市民が歯科健診や口腔ケアを受けやすい体制づくりを行います。</p> <p>◆障害福祉サービス事業所と連携し、歯・口腔の健康づくりに取り組みます。</p> <p>◆ライフコースアプローチの視点を踏まえ、多職種が連携して歯・口腔の健康づくりを推進します。</p> <p>93P</p> <p>◎災害への備えとして、口腔ケア用品を備蓄します。</p> <p>94P</p> <p>◆災害時における口腔ケア等の重要性を周知し、関係機関と連携して取り組みます。</p> <p>112P</p> <p>【高齢期】 ◆関係機関と連携して、災害時の口腔ケア対策に取り組みます。</p> <p>97P</p> <p>(2) 評価指標・目標 に5歳児の指標を追加 評価項目：5歳児でむし歯のない人の割合 現状値：82.6% 中間目標：86.0% 最終目標：90.0%</p> <p>98P</p> <p>◎ゆっくりよく噛んで食べる習慣を身に付けます。 ◎発達段階に応じた口腔機能を獲得します。 ◆成長や発達に応じた健全な口腔機能の獲得に向けた啓発と指導を行います。 ◆望ましい食生活やよく噛んで食べる習慣の定着を図るため、食育と連携して取り組みます。</p> <p>98P</p> <p>◎保護者が仕上げみがきをします。 ◆乳幼児健診において、仕上げみがきの重要性と実践方法を周知します。</p> <p>106P</p> <p>【青年期・壮年期】 ◎自分や家族の歯・口腔の健康に关心を持ち、定期的に歯科健診を受けます ◎自分や家族の歯・口腔の健康に关心を持ちます。 ◎自分や家族の健康に配慮した食生活を心掛けます。 ◆家庭での歯・口腔の健康づくりの重要性を啓発し、家族で取り組むことを勧めます。</p>	

学童期・思春期	・「健康な歯肉を持つ子」が指標となっているが、県「中学生3年生の歯肉炎有病者率」と合わせてはどうか。		推進会議の中で検討する。
	* 1人で複数本むし歯を持っている子が一定数いる。低学年では、乳歯のむし歯を何本も持っている子もいる。	101P 102P	◎むし歯や歯肉の所見を指摘されたら、必ず歯科受診します。 ◆かかりつけ歯科医を持ち、 <u>定期的な歯科健診受診の重要性を保護者や子ども達へ啓発します。</u>
	* すぐ治療に行く家庭と、なかなか治療に行かない家庭が見られる。子ども達自身が知識を持っていても、歯医者に連れて行くのは保護者なため、保護者への啓発を強化できるといい。		
	* 障がいがあると、より子どもの頃からのフッ化物洗口が大事になる。フッ化物洗口以外の有効な方法はあるのか。	94P 98P 102P	【全てのライフステージ】 ◆フッ化物の効果について啓発し、利用を勧めます。 【乳幼児期】 ◎定期的にフッ化物歯面塗布を受けます。 ◆年齢に応じたフッ化物利用の推進を図ります。 【学童期・思春期】 ◆学校でのフッ化物洗口を継続して行います。
青年期・壮年期	* 歯周病の管理が出来ているかどうかで、大きな病気の予後が違うことを実感している。	取組一覧	『健康増進計画』「歯・口腔の健康」分野にも反映 ◆歯・口腔の健康と全身の健康の関わり、更にむし歯・歯周病予防に必要な知識を普及啓発します。
	* 困っていないでも、歯科医院を受診するよう啓発して欲しい。	106P	◎かかりつけ歯科医を持ち、 <u>自覚症状がなくても定期的に歯科健診を受けます。</u> ◆定期的な歯科健診受診の重要性を周知し、 <u>自覚症状がなくても受診するよう働きかけを行います。</u>
	* どこの企業でも健康診断をしているので、一緒に歯科健診をすることができないか。	106P	◆企業や事業所を通じて、歯周病検診や歯・口腔の健康に関する情報提供を行います。
	* 若い世代への啓発方法を追加	106P	【青年期・壮年期】 ◆歯科疾患予防のための <u>情報発信</u> を行い、定期的な歯科健診受診の定着を図ります。 ◆各種イベントや <u>SNS</u> を通じて、市民の歯・口腔の健康に関する関心を高める取組を推進します。
高齢期	* 過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合(65～84歳) 中間目標の修正	110P	現状値、中間目標を修正 現状値：57.3% 中間目標：58% 最終目標：60%
	* 高齢期の取組に「家族ができる簡単な口腔ケアを実践しましょう」とあるが、家族がお口のケアや入れ歯を洗うことは難しい。口腔ケアが必要な方に対しては介護者が、障がいなど支援が必要な方に対しては支援者としてはどうか。	93P 111P 112P	【全てのライフステージ】 ◎口の中を清潔に保ちます。 ◎本人や家族、介護者や支援者が口腔ケアを行います。 【高齢期】 ◎適切なケアを受け、口腔内を清潔に保ちます。 ◆家族や介護者・支援者に対し、口腔ケアの重要性や実践方法に関する情報提供を行います。
	* 高齢期では、食べることや口腔内の健康が命に関わってくる。認知症の方への歯科治療は難しく、支援も難しい。認知症の方への支援がないことが気になった。	94P 112P	【全てのライフステージ】 ◆歯科医師会や地域・関係機関の協力を得て、 <u>配慮が必要な方を含め、市民が歯科健診や口腔ケアを受けやすい体制づくりを行います。</u> 【高齢期】 ◆介護サービスや歯科医療との連携を推進し、要介護高齢者が適切な口腔ケアを受けられる体制づくりを行います。 ◆全身の健康、認知症や介護予防と関連づけて、歯・口腔の健康の重要性を周知啓発します。
	* 認知症の方が歯科受診するにあたり、家族の了解を得る際に、食べられるなら受診しなくてもいいと考える家族もいることから、家族への啓発ができるといい。	106P 112P	【青年期・壮年期】 ◎ <u>自分や家族の歯・口腔の健康</u> に関心を持ちます。 ◎ <u>自分や家族の健康</u> に配慮した食生活を心掛けます。 ◆定期的な歯科健診受診の重要性を周知し、自覚症状がなくても受診するよう働きかけを行います。 ◆家庭での歯・口腔の健康づくりの重要性を啓発し、家族で取り組むことを勧めます。 【高齢期】 ◆家族や介護者・支援者に対し、口腔ケアの重要性や実践方法に関する情報提供を行います。
	* コツコツ貯筋体操では、最後にお口の体操をしている。お口の体操は一生懸命しているが、お口のケアについては関心がない人が多い。	106P 111P 112P	【青年期・壮年期】 ◎歯周病が全身の健康に影響することやオーラルフレイルについて理解します。 ◆望ましい生活習慣と併せて、 <u>オーラルフレイルや歯科疾患予防に関する知識の普及啓発を行います。</u> 【高齢期】 ◎歯・口腔の健康が誤嚥性肺炎の予防や全身の健康に関係していることを理解します。 ◎お口の体操でオーラルフレイルを予防し、口腔機能の低下を防ぎます。 ◆オーラルフレイルに関する知識を普及し、予防の取組を推進します。 ◆全身の健康、認知症や介護予防と関連づけて、歯・口腔の健康の重要性を周知啓発します。